

# 資料3 希望番号取得者の新たな決定方法 の方向性について

---

# 希望番号取得者の新たな決定方法検討の前提と目的

## 前提

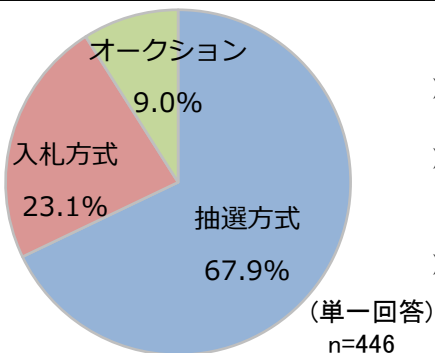
- 現在、希望番号制度において人気の高い番号は、無料の抽選制度を導入しているところ、一部の番号は抽選倍率が高く、希望者がなかなか当選できない状況にある。
- 諸外国において、希望番号の取得にあたり、①有料の抽選、②入札、③オークションを採用している国・地域も存在している。
- ユーザーの希望に応じて番号を交付すると特定の番号が枯渇（早い者勝ち）する恐れがある。

## 目的

- 人気の高い希望番号の抽選倍率を下げることにより、真に希望する方ができるだけ早く入手できるようにする

## ユーザーアンケート

令和7年2月28日～3月1日実施



Q:どの方式がよいか

- 抽選方式(当選者が定額の寄付を行う。)
- 入札方式(一度限りの入札方式。他者の入札額を把握できない。)
- オークション方式(競り上げによる入札方式。他者の入札金額を把握できる。)

## ディーラーアンケート

令和7年3月13日～3月21日実施

- 入札・オークション方式は、納期が長くなる要因となり、好ましくない営業・事務スタッフも業務が複雑化し、工数の増加が見込まれる
- 入札・オークション方式は、金額が大きく吊り上がってしまう懸念があることから、寄付金額は定額が望ましい
- ユーザーとの関係では現状どおり注文時に金額が明確であることが望ましい

これらを踏まえ、人気の高い希望番号取得者の新たな決定方法を検討する。

抽選番号を希望する者に対し一定額以上の負担を求める方法に限らず、抽選番号のナンバーの払出し枚数を増やす等の方策も幅広く検討する。

# 抽選対象番号の当選倍率の一例

- 抽選対象希望番号について、1,7,8,88,333,358,555,777,888,1111,3333,5555,7777,8888の14通りを全国共通で設定しており、最大で神戸の39通りまで地域により異なる。(自家用の普通乗用自動車の例、以下同じ。)
- 最高倍率については地域により1.25倍から30.86倍まで差が生じているが、最低倍率については0倍から0.41倍とほとんど差がなく、1倍を下回る番号も存在している。

令和7年3月～4月の2ヶ月間の自家用の普通乗用自動車(3ナンバー)の抽選実績

地域名(一例)	抽選対象番号の数	全ての抽選対象番号の期間平均倍率	最高倍率(期間平均)とその番号	最低倍率(期間平均)とその番号	倍率(期間平均)が1を下回る抽選対象番号の数		
札幌	16	2.57倍	11.19倍	1	0.35倍	5555	7
宮城	13	0.81倍	2.56倍	1	0.25倍	3333,5555,7777	10
新潟	13	0.56倍	1.25倍	8	0.25倍	5555	12
横浜	36	2.99倍	16.86倍	1	0.39倍	5555	11
名古屋	36	4.86倍	24.28倍	1	0.41倍	7788	10
神戸	39	3.56倍	30.86倍	1	0.36倍	3333	10
広島	13	1.28倍	5.61倍	8	0.25倍	777	10
愛媛	13	0.80倍	1.78倍	8	0倍	777	10
福岡	16	2.22倍	10.22倍	1	0.29倍	3333	8
沖縄	13	0.84倍	1.75倍	8	0.25倍	5555	9
平均	20.8	1.64倍	10.64倍	-	0.28倍	-	-

注: 令和7年3月～4月時点の全国共通抽選対象番号は上記14通りから358を除いた13通り

出典: 一般社団法人全国自動車標板協議会

## 抽選倍率を下げる手法へのご意見

- 限りある資源をどのように有効に活用するか、制度の持続性を考えるべきであり、当選個数をどの程度増やすことができるかを考えたときに、例えば当選倍率が30倍の番号について当選個数を増やす方法で倍率を1倍に下げようとする約1年で枯渇することになるため、現実的ではないのではないか。
- 当選個数を倍にして当選倍率を半減したところで効果は限定的ではないか。
- 特定の人気の高い番号の払底時期が早まっていることを理由に当選個数を制限している状況を踏まえると当選個数を増加させることは現実的ではないのではないか。
- 当選個数を増加させると、番号払底時期が早まるとともに、なかなか当たらないので価値があるといった考えもあるため、無理して当選個数を増加させる必要はないのではないか。
- 当選個数増加による倍率低下の効果は限定的であることから、抽選参加料等を設けることを基本としてはどうか。
- 抽選対象番号の当選後に手数料を支払う仕組みだと倍率が下がらないため、抽選時に参加料を設ける手法が良いのではないか。
- 抽選参加料を寄付金とする場合、寄付の対価の議論が必要ではないか。
- 仮に抽選参加料を希望ナンバーシステムで収受する場合、事前に代金を収受する仕組みがないため、大規模なシステム改修が必要であることから中長期的な対応が必要ではないか。
- 当選までに必要となる平均的な抽選参加回数を公表することにより、倍率低下が見込まれるのではないか。
- 番号の再利用については、MOTASの大規模改修や他の社会経済システムにも影響を与えることから慎重な検討を要するのではないか。

## 1. 抽選対価をどのように収受するか

- 現行制度において収受している交付手数料又は寄付金が候補に考えられるのではないか。
- 仮に交付手数料とする場合、交付手数料は実費を勘案して設定するものであることから説明が困難ではないか。また、抽選に落選し、ナンバープレートの交付を受けない者から交付手数料を収受することはできないのではないか。
- 仮に寄付金とする場合、ユーザーが抽選に参加する対価として寄付金を支払うことに問題がないか確認した上で、寄付の収受主体、寄付金額、寄付金の使途について今後検討すべき課題がある。

<寄付金の対価と公職者の取扱いの参考>

図柄ナンバープレートは、告示に定められた取組に対する寄付金を納めた者に対して告示で定める図柄（塗色）のナンバープレートを交付することとしているが、寄付をしない場合であっても通常の（無地の）ナンバープレートを交付する制度としているので、寄付金が図柄ナンバープレートの交付の対価とはならないとされている。また、公職者は広く地域振興や国民的行事の成功に向けた取組みを推進していく立場にあることから、寄付を行うことなく図柄ナンバープレートの交付を受けることができることを告示に規定している。

- 仮に寄付金など交付手数料以外とする場合、新たなシステムを構築する必要がある。

## 2. 対価を求める時期をどうするか

- 抽選時又は当選時が候補に考えられるのではないか。
- 仮に当選時とする場合、抽選時とする場合と比較して抽選倍率が下がる可能性が低いですが、当選者した者が支払うことになるため、現行の制度に準じた対応ができるのではないか。
- 仮に抽選時とする場合、当選時とする場合と比較して抽選倍率が下がる可能性が高いが、当選者した者以外も支払うことになるため、現行の制度に準じた対応が困難ではないか。
- 仮に抽選時など当選時以外とする場合、新たなシステムを構築する必要がある。

### 3. 対象番号をどうするか

- 人気のある抽選対象番号及びその当選倍率は、地域により異なる状況にあり、現行制度において抽選対象番号は地域により異なる運用としていることから、全国一律ではなく地域別に対象番号を定めてはどうか。
- 倍率が1倍以下となるような番号まで抽選番号とならないよう現行制度の運用を見直ししてはどうか。また、抽選対象希望番号の具体的な抽選倍率を逐次情報提供することや当選までに必要となる平均的な抽選参加回数を公表してはどうか。これらにより行動変容を促すことができるのではないか。

### 4. 金額をどうするか

- 倍率に応じて金額を変化する方法ならば、抽選倍率の低いナンバーを選んで申し込むインセンティブになるが、金額を定額にしてほしいとするディーラーに配慮する必要があるのではないか。
- 令和7年に実施したユーザーアンケートにおける抽選方式について、当選者が定額の寄付を行うことを前提としていたため、仮に抽選参加料として当選者以外から収受する場合は、改めてアンケートなどを踏まえた適切な金額を検討すべきではないか。

# 【参考】抽選参加料による倍率低下を促す案

## 検討の方向性

- 申込み時に一定額以上の抽選参加料を支払うこととすると、倍率の低下が見込めるのではないか。
- この方式では、当選機会は幅広く提供可能であり、かつ、販売事業者に手間を多くかけないことが可能。

